

国立大学図書館協会 海外派遣者選考委員会報告（平成18年度）

1. 海外派遣事業

(1) 派遣内容：

- a) イリノイ大学モーテンソンセンター・アソシエイツ・プログラム（8週間）1名
- b) 諸外国の先進的な図書館活動、施設等に関する調査・研究 1名

(2) 事業期間：平成18年度から20年度までの3年間

(3) 財 源：田嶋記念大学図書館振興財団からの助成金及び国立大学図書館協会基金

(4) 派遣者の選考：「海外派遣者選考委員会」で選考し、理事会に報告して決定

(5) 報 告：

会長に報告書を提出する他、成果を「大学図書館研究」誌上、総会等で発表

2. 経 過

経過	日付	事 項
1	2006.1.27	人材委員会委員長及び委員で海外派遣者選考委員会を構成 （「海外派遣者選考委員会規程」（平成18年1月27日 理事会決定）第4条の規定による）
2	9.8	平成19年度海外派遣者公募開始 締切：12月末日
3	2007.1.10	海外派遣者選考委員会委員長宛に事務局から応募者1名の応募書類送付 （応募者の内訳）モーテンソンセンターに1名、調査・研究はなし
4	1.11	海外派遣者選考委員会委員長が、応募者の所属大学を考慮して海外派遣者審査専門委員会委員3名を選考、海外派遣者審査専門委員を委嘱
5	2.9	海外派遣者審査専門委員会開催
6	2.23	海外派遣者審査専門委員会主査から審査報告を海外派遣者選考委員会委員長に提出（3.3.一部修正受理）
7	26	上記報告を海外派遣者選考委員会に文書回議 3月6日 了承
8	3.6	海外派遣者選考委員会委員長から海外派遣者選考結果を理事会に報告
9	9	上記選考結果を会長から理事会に文書回議 理事会で、了承（3月22日付連絡受理）

### 3. 平成19年度海外派遣者の選考結果

(別紙1)のとおり

平成19年9月に出発の予定

### 4. 平成18年度海外派遣者からの参加報告

(別紙2)のとおり

### 5. 海外派遣事業延長の提案

海外派遣事業は平成20年度で終了する予定であるが、人材育成・確保のために極めて有効であり重要である。この認識に基づき、人材委員会での検討を経て、財源確保等の前提があるものの、平成21年度以降も3～4年間にわたり更に海外派遣事業を延長することを平成18年10月26日開催の理事会において提案した。

所要経費との調整の関係もあり、会長、副会長、事務局で検討した上で、改めて春の理事会で協議することになった。

### 6. 関係申請書式等の追加・修正

(1) 平成17年度海外派遣者審査専門委員会からの平成18年3月15日付での下記指摘事項について審議した結果、申請書式の改正案、募集に当たっての補足説明文案ならびに募集スケジュール案を作成し、「海外派遣事業応募要領の一部改正等について(報告)」(平成18年9月7日付 京大図総総第204号)により会長に報告し、了承された。

a) 審査に必要な情報として、申請書、推薦書への追加記載項目

b) 面接の必要性

(2) 平成18年度海外派遣者審査専門委員会からの平成19年2月23日付での下記指摘事項について審議した結果、応募書類に添付する資料として提出を求めるか、応募申請の規程を変更するかを今後検討することとした。

a) 海外派遣事業に応募する目的・動機について日本語による文書の追加提出

b) これまでの活動成果に関連する論文等の成果物を添付すること

### 7. イリノイ大学モーテンソンセンターでの研修に関する私立大学図書館協会との打合せ

a) 日 時：平成18年7月21日(金)

b) 場 所：京都大学附属図書館

c) 参加者：

1) 私立大学 私立大学図書館協会図書館国際協力委員会委員長館(関西大学)

平成18年度派遣予定者(立命館大学)

平成17年度派遣者(明治学院大学)

2) 国立大学 国立大学図書館協会海外派遣者選考委員会委員長館(京都大学)

平成18年度派遣予定者（広島大学）

- d) 内容：平成15年度より同一プログラムに職員を派遣している私立大学図書館協会と情報交換を行なうとともに、派遣予定者と経験者との研修体験の交流を実施

8. 平成20年度海外派遣者の募集予定（3年計画の3年目）

平成19年秋に12月末を期限として公募予定

9. 委員名簿（平成19年3月の選考時点）：委員長

大平 具彦	北海道大学附属図書館副館長
北村 明久	東北大学附属図書館事務部長
植松 貞夫	筑波大学附属図書館長
関川 雅彦	東京大学附属図書館情報管理課長
青木 利根男	東京学芸大学学術情報部情報管理課長
早瀬 均	名古屋大学附属図書館事務部長
大埜 浩一	京都大学附属図書館事務部長
長坂 みどり	京都大学附属図書館総務課長
平元 健史	大阪大学附属図書館事務部長
片山 俊治	広島大学図書館部学術情報企画課長
益森 治巳	長崎大学学術情報部学術情報管理課長
貝田 辰雄	国立情報学研究所開発・事業部企画調整課長

事務局：京都大学附属図書館

人材育成担当理事館：北海道大学附属図書館、京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館

10. 参考

- (1) 「海外派遣事業実施要項」(平成18年1月27日 理事会決定)等の諸規程

平成19 年度国立大学図書館協会  
海外派遣者審査結果報告

( 1 ) イリノイ大学モーテンソンセンターのAssociates Program ( 8 週間 )

応募者 : 大塚志乃 ( 3 5 歳 )  
大阪大学附属図書館情報サービス課雑誌情報係

調査研究テーマ : 雑誌業務の調査研究 - 契約から情報リテラシー教育まで -

選考理由 : 大学の学術情報流通環境において、近年、電子媒体の整備は最も重要な事項の一つとなっている。応募者の調査研究テーマは電子ジャーナルを中心とした雑誌業務となっており、国立大学図書館協会として海外に派遣しその成果を会員に還元することは時宜を得たものと判断される。

とくに応募者の関心の一つである外部資金の獲得は、米国において活発に行われており、モーテンソンセンターにおける研修による成果が期待できると考えられる。

応募者の英語能力もAssociates Program を受講するに十分であると判断できる。

( 2 ) 諸外国の先進的な図書館活動、施設等に関する調査・研究

応募なし

平成 18 年 11 月 17 日

平成 18 年度国立大学図書館協会海外派遣事業  
Fall 2006 Associates Program, Mortenson Center for International Library Programs,  
University of Illinois 参加報告書

庄 ゆかり  
広島大学図書館

このたび、平成 18 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、Fall 2006 Associates Program, Mortenson Center for International Library Programs, University of Illinois に参加、研修を修了したので報告する。

1. 研修期間

平成 18 年 9 月 6 日(木) - 11 月 3 日(金)

2. 研修内容

( 1 ) Mortenson Center Seminar Series

イリノイ大学図書館情報学大学院教授による図書館経営学講義シリーズとイリノイ大学図書館員による実務に即した講義の 2 種

( 2 ) New Technologies

主としてインターネットを利用した最新テクノロジーに関する講義と実習

( 3 ) Tours of Libraries

学校図書館、公共図書館、博物館図書館、大学図書館など各種の図書館訪問。  
ALA、OCLC 本部等の訪問も含む

( 4 ) Conference Participation

The 2006 Illinois Library Association Annual Conference へ参加

( 5 ) Participation in Meetings and Local Workshops

イリノイ大学図書館で行われる Faculty Meeting や ワークショップへ参加

( 6 ) Consultations with Librarians

イリノイ大学図書館員への個別インタビュー

3. 研修効果

( 1 ) 国内図書館状況の客観的評価

背景の異なる多くの図書館員・研究者また研修参加者と意見を交換し共通の問題について議論することにより、国内大学図書館のおかれている状況を客観的に

評価することができた。また、課題解決のための手法を学んだ。

(2) 国際的人的ネットワークの形成

イリノイ大学図書館員に限らず、訪問先図書館、プログラム参加者との交流を通じ、国際的な人的ネットワークを形成した。また、英語での国際交流に必要なコミュニケーション能力が向上した。

(3) 調査研究

研究テーマである「図書館における企画・立案とマーケティング」に関して、図書館員へのインタビューなどを行い、調査した。(研究成果は後日発表予定)